

※一部情報を非表示

2017年 市民による「生き物調査」

—昆虫、植物、鳥類 調査結果—

渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会

2014年～2017年 市民による「いきもの調査」結果 <昆虫類>

調査方法

(1) ピットホールトラップ

コップ(直径 65 mm、220ml)を埋めそこに落ちた虫を調べる。水辺に近いところ(トラップ1)と約5m離れたヨシやオギの多いところ(トラップ2)に各10個設置。環境指標生物として優れたコウチュウ目オサムシ科を調べる目的。

(2) フライトインターセプトトラップ (Flight intercept Trap) 通称 FIT (2014年実施)

空中浮遊昆虫を採集するためのトラップ。衝突版(A2版)の下に水を張り落下したものを採集する。通常の調査では見つからないものが採集できる、吊り下げたものを「吊り下げ式 FIT」、FIT にライト(明暗センサーのついた LED ライトを使用した)をつけたものを「ライト FIT」。

(3) 見つけ採りによる調査

水の中の虫はネットを使用。

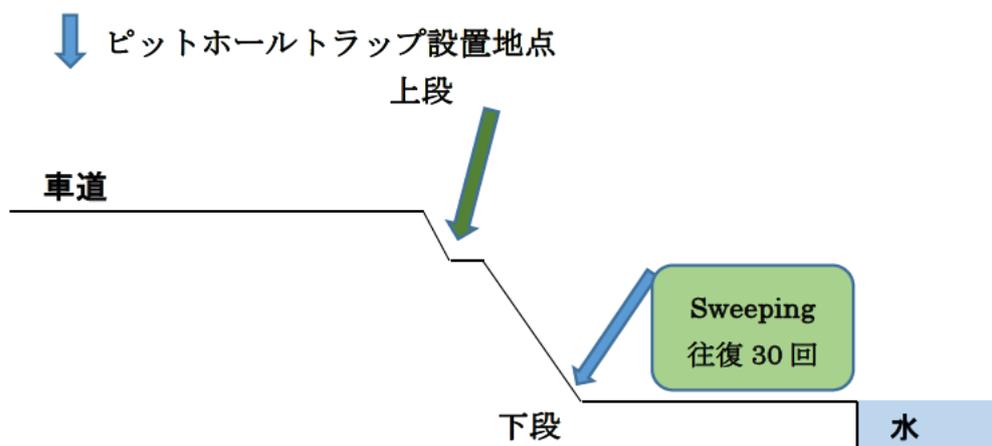
(4) エリザハンミョウの巣穴調査 (2014年, 2015年実施)

50 cm×50 cmの方形枠を4個設置しデジタルカメラで撮影し巣穴を数える。

(5) Sweeping 調査 (2016年より実施)

掘削池周辺に生える植物 42cm 口径の捕虫網を用いて網を30往復掬い採集された昆虫を調べる。

*主に [REDACTED] で調査を行った。



レッドデータ昆虫の発見

種名	国	栃木県
アカガネオサムシ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
セアカオサムシ	準絶滅危惧	要注目
チョウセンゴモクムシ	絶滅危惧Ⅱ類	要注目
イグチケブカゴミムシ	準絶滅危惧	準絶滅危惧
コガムシ	情報不足	要注目
クツワムシ	—	要注目
クギヌキハサミムシ	—	要注目
ヒメミズカマキリ、	—	絶滅危惧Ⅱ類
ムモンチャイロテントウ	—	要注目
ジュウサンホシテントウ	—	要注目
ババスゲヒメゾウムシ	—	要注目
オオサルハムシ	—	準絶滅危惧
オオケブカチョッキリ	—	要注目
ヤマトヒメメダカカッコウムシ	—	要注目

タガメ；国 絶滅危惧Ⅱ類 栃木県 準絶滅危惧 も見つまっているようだ。

* 渡良瀬遊水地から記録のある国の絶滅危惧種は 63 種。

2014 年～2017 年調査のまとめ

- ① 遷移の進展に伴い 2014 年には非常に多く見られたエリザハンミョウが殆どいなくなった。
- ② 水生昆虫は種類数の増加がほとんどない。
- ③ 8 月以降は度重なる冠水の影響（氾濫原の特徴）で虫は分散し、調査は困難であった。
- ④ 2016 年よりスウィーピング（掬い網）による調査を実施した。掘削池から発生するユスリカ等のハエ目、ヤナギ類・スゲ類を餌とする昆虫、それを捕食するもの、あるいは寄生するものに大きく分けられる。環境自体は単調なため種類数は少ない。5 月、6 月は多いが 8～10 月は少ない。これは大雨・台風による調査地の冠水の影響も大きい。
- ⑤ ピットホールトラップの結果はこれまでのところ大きな変化は認められない。哺乳動物によるトラップの荒らされ方がひどい。
- ⑥ 掘削後の 3 年間くらいは変化が認められたが、これからの湿地再生地の昆虫は大きな変化はないものと予想される。
- ⑦ ワタラセハンミョウモドキが湿地再生地の一部に侵入する兆候が認められた。但しヤナギの除去が課題である。

2017年 市民による生きもの調査 昆虫類

例年大きな冠水があり特に8月以降は冠水の影響で昆虫が分散し十分な調査が出来なかったが、今年は大きな冠水がなかったため虫はそこそこ見られた。

5月と6月の調査は都合により実施していない。そのため2017年の調査は十分でない。
XXXXXXXXXXを中心に調査を行った。

1 調査日と調査内容

調査日	調査内容 水の中の生きもの調査	陸上昆虫の調査		
		見つけ採り	Sweeping 調査	ピットホールトラップ
4月16日(日)	○	○	○	実施せず
9月10日(日)	○	○	○	設置
9月13日(水)				回収
10月8日(日)	○	○	○	設置
10月13日(水)				回収

2 水の中の生きもの調査

4月16日(日)：変わり映えしない結果のため省略。

9月10日(日)：ヒメミズカマキリ、ミズカマキリ(初記録)、ハイイログゲンゴロウ、コマツモムシ、コミズムシ、チビミズムシの一種等全体的には変わり映えしない。

10月8日(日)：チビミズムシの一種がたいへん多い。アメンボ類幼虫、ヒメイトアメンボ、ケシカタビロアメンボ、トゲバゴマフガムシ、ミジンダルマガムシなどが見られたが前回調査(9月10日)よりは明らかに少ない。全体的には変わり映えしない。

3 陸上昆虫調査

(1) 見つけ採り

4月16日(日)：変わり映えしない結果のため省略。

9月10日(日)：ヤナギが目立ちガマ・ヨシなどが密生してきた。今年は大規模な冠水がなく虫はそこそこ見られる。この時期分散して見られなかった直翅目(バッタ・コオロギなど)もいた。

10月8日(日)：ヤナギルリハムシが目立つ程度で成果なし。

(2) Sweeping 調査

4月16日(日)：植物が生育しておらず実施せず。

9月10日(日)：アジアイトトンボ6、イチモンジカメムシ2、ツユムシ1、オンブバ

ツタ 2、ヒゲナガヤチバエ 5、ヤナギルリハムシ 4 とその幼虫、スズキミドリトビハムシ 1、カバイロヒメテントウ、ヨコバイ数種、ハナバチ、ハナアブ、ユスリカ、ヒメハナムシなど。春よりはかなり少ない。クモはアシナガグモ小さいもの、オスグロハエトリなど。特記すべきものとしてはヤマトヒメメダカカッコウムシ（栃木県レッドデータ昆虫；要注目）2頭がいた。

10月8日（日）：前回調査（9月10日）よりは明らかに少ない。しかしクモの割合が今回は高い（数えることが出来ただけで約100頭）。半数以上はアシナガグモの一種が占める。セスジツユムシ、寄生性のハチ、ハエの仲間、ユスリカの仲間、ヤナギルリハムシ、スズキミドリトビハムシ、ヒメカメノコテントウ、ヨコバイ数種など、特記すべきものとしてはムモンチャイロテントウ（栃木県レッドデータ昆虫；要注目）2頭がいた。



ムモンチャイロテントウ

ヤマトヒメメダカカッコウムシ

コハナグモ



ハナグモ

オスグロハエトリ

アシナガグモの一種

4 ピットホールトラップ調査

4月16日（日）：春先で成果が期待できないため実施せず。

9月10日（日）～13日（水）：下段：水面に近いほうのみ設置

10個中4個が哺乳動物により荒らされる。クロオオナガゴミムシ3、アオゴミムシ2、ツヅレサセコオロギ、ヤチスズが入っていた。

10月8日（日）～11日（水）：上段：道路下，下段：水面に近いほうに各10個設置

に極最近設置された回収忘れトラップが3個あり、その結果も報告

する（10月8日）回収。

10月8日～11日 設置のピットホールトラップ結果

種名	上段	下段	■
トウキョウヒメハンミョウ		1	
セアカオサムシ			3
ヨツボシコミズギワゴミムシ		1	
オオクロナガゴミムシ	1	3	6
クロオオナガゴミ	6	3	2 4
キンナガゴミムシ	1		
キアシヌレチゴミムシ	2		1 2
セアカヒラタゴミムシ	1 0		6
オオゴモクムシ	1		1
チョウセンゴモクムシ			1
アオゴミムシ	1 5	3	6
ムナビロアオゴミムシ			1
コガシラアオゴミムシ		2	1
ヒメキベリアオゴミムシ			1
スジアオゴミムシ	1		

5 ■の調査

別項「ワタラセハンミョウモドキの調査」として報告。

2017年10月 大川 秀雄

湿地再生地におけるワタラセハンミョウモドキ調査 (秘)

大川 秀雄

調査日

2017年4月16日

においてヤナギの除去状況とヨシ焼き後のヤナギの状況確認の際
5頭発見。*図を参照

2017年4月19日 個人調査

: 2頭確認。*図を参照

: 見出せず (2015年に1頭確認)。

2017年4月26日 個人調査

から までを約3時間車道を歩きながらワタラセハンミョウモドキのいそうなところを実験地の反対側も含めラインセンサ的に調べた。

: 1頭確認。*図を参照

: 2頭確認。*図を参照

の調査: 見出せず。但し生息可能な環境があり今後も継続調査の必要あり。

2017年9月10日

住民協議会主催生きもの調査参加者で のヤナギの除去作業を行う。
ワタラセハンミョウモドキは見出だせず。

および他の実験地で

ワタラセハンミョウモドキを定着させるためには

ヤナギの除去対策が出来れば定着は可能と思われる。ヤナギの除去は人為とヨシ焼きが効果的。

は大きな生息地のある が冠水した時に移動したのと思われる。 以外でも生息可能な湿地再生地がある。

にも生息が確認されたことから車道を越えての移動の可能性がある。

しかし幅が広い車道のため冠水がないと移動は難しい。

更に未解明の生息地から湿地再生地への移動も考えられる。

継続調査を予定している。

ワタラセハンミョウモドキ確認地

(図は国土交通省ホームページより) ㊞

非表示

写真1



写真2



写真3

非表示

ワタラセハンミョウモドキ

2017年4月19日撮影



2017年 市民による「生き物調査」植物 のまとめ

〔調査期間〕 2017年04月16日～2017年10月08日

〔調査地〕 渡良瀬遊水地第二調節池・湿潤環境形成実験地及び水位安定実験地

〔調査地概要〕 調査地は国土交通省の湿地再生事業で2013年1月～10月にかけて掘削され、当時は植生の全く無い、土むき出しの裸地であった。2017年4月16日の調査地は、裸地状態から4年経った状態である。

〔植生景観の変化・調査結果〕 この春のヨシ焼きは3月18日であったが、調査地は4年間一度も火が入っていない。ワンド状の調査地は、工事用道路の法面以外は草刈りもされていない。道路に立って調査地を眺めると、立ち枯れに緑が芽吹き、高茎草原に池が点在する景観であり、泥裸地は全く見られない。ほぼ昨年と同様の景観である。

湿潤環境形成実験地及び水位安定実験地である、ワンド底部へ降りると、地面は固く泥が薄く溜まり、滑りやすい湿地で、池の部分以外は長靴で歩き回れる。高茎草原はヤナギ、マツカサススキ、ヒメガマ、ヨシ、セイタカアワダチソウ等、草丈1~2m程度。昨年よりやや歩き難いが、大きく変わった感じはしない。ワンド底部地表は、冬季は常に、この様な湿地状態で、水位安定実験地実には常に水があり、いくつかの池のある状態も昨年と同様である。今年度は、この掘削地での観察をほとんどせず、植生景観調査の時間を減らし、環境学習フィールド(2)の利用計画案の創造と保全管理活動に重点を置いた。4月16日は、そのための観察を行った。

今年の夏から秋にかけては、天候不順であった。6月7月の梅雨時は晴天が続き暑い日が多く、8月9月はぐずついた天気が続いた。雨の日は多かったが、大雨や台風はほとんど無く、調査地が水没して、水を被る事はなかった。

春から秋にかけての、植生景観は、昨年とほぼ同じである。道路に沿って2mほどのヨシやセイタカアワダチソウ等が生育し、掘削地は見えない。掘削地底面は1.5mほどの高茎草原に池が点在する景観だが、見通しは良くない。地面は湿っていて、数cmの浅い水たまりが広がっている。地面は固い。一年草はほとんど目につかない。強いて変化をあげるとすると、池の縁のヨシ、ヒメガマが生育良く広がって、池の見通しが悪くなった。湿地のオギ、ヒメガマは貧弱で、ヤナギがやや目立つといったところである。

追記・・・堤防状の工事用道路は、大型鳥採餌休息環境実験地造成の掘削は終わったが、その北東部を掘削しているので、土運び出しのダンプカーが通っている。石川放水路にダンプカーの通れる橋がかかった状態。春先、環境学習フィールド(2)の東、与良川にかかる橋(道路)付近は、砂利による盛り土が行われ、頑丈になった。

長島永幸
2017年10月

鳥類調査

別表1. 2017年度

調査結果

開催年		2017	2017	2017	2017	2017	2017	2017	2017		
開催月		4	5	6	9	10	10	10	10		
開催日		16	28	11	10	8					
時間	開始	9:30	6:22	7:07	6:19	7:12	6:19	7:01	6:15	6:51	
	終了	10:30	7:02	8:00	7:12	8:02	7:00	7:45	6:48	7:45	
天候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	霧・曇	晴		
確認種		23	15(3)	23(2)	13(3)	23(2)	14	15(1)	17	23(1)	
目	科	種		種		種		種		種	
キジ	キジ	キジ	1	0(1)	2	1(1)	2(1)		0(1)		
カモ	カモ	マガン	2								
		マガモ	1								2
		カルガモ	4	1	4(1)	2	6(2)	18	21(2)	20	39(5)
		ハシビロガモ								1	
		コガモ						24	10	5	31(23)
		オカヨシガモ								8	
		オナガガモ							1		
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	1	2		23	1	1	1	2	2(1)
ハト	ハト	キジバト	1	1	1					1	2
カツオドリ	ウ	カワウ	1		2		2	1	2		3(1)
ペリカン	サギ	ヨシゴイ			1sp	2	2				
		アオサギ	8	1	2	2	2		1		2
		ダイサギ	4		2	2	2		4	2	2(1)
		チュウサギ			2						
ツル	クイナ	クイナ			1						
カッコウ	カッコウ	カッコウ		0(1)	0(3)	0(1)	0(2)	2	1		
チドリ	カモメ	コアジサシ		0(1)							1
	シギ	イソシギ	1								
		アオアシシギ									1
タカ	ミサゴ	ミサゴ	1								
	タカ	トビ	2		1	0(5)	4	3			
		チュウヒ	2					1	1		2
		オオタカ	1								1
	ノスリ	1									
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ		2	1	1	2				1
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ					1				
スズメ	モズ	モズ								2	3(1)
	カラス	ハシボソガラス	1		2		1		6	2	2
		ハシブトガラス	1	2	5	1(2)	4			8	1
		カラスSP								1	1
	シジュウカラ	シジュウカラ		2			2				
	ヒバリ	ヒバリ	2	4	11	8	2	10	3	3	2
	ツバメ	ショウドウツバメ					20			1	23
		ツバメ			2	0(8)	3	30	1		
	ヒヨドリ	ヒヨドリ			0(1)						
	ウグイス	ウグイス	2	3	3	2	2	1	3	1	
	センニュウ	オオセッカ		2(1)	1		0(1)				
	ヨシキリ	オオヨシキリ		16	23	31	32	20	9		
		コヨシキリ		12	22	10	9	9	5		
セッカ	セッカ	1	7	11	11	11	1	1			
セキレイ	ハクセキレイ			1						1	1
	タヒバリ	1									
アトリ	カワラヒワ			1		3			62	41	
	シメ									3	
ホオジロ	ホオジロ	3	3		2	2	4				
	アオジ	2			2	1					1
	オオジュリン		9	3							
総数(羽)		44	67(4)	104(5)	98(17)	116(6)	125	69(3)	115	173(6)	

※4月16日: 調査時刻が5月以降より遅く参考記録扱い

※()内はコース外の記録